

2021.9.26 Blog

成長させてくださる神



日本のクリスチャンの平均寿命は3年弱というデータがあります。
洗礼を受けても、多くの方は3年弱で教会から遠のいてしまうのです。
私の10年弱のクリスチャンライフを振り返っても、確かに3年ほどで教会から離れて行ってしまった方が何人もいらっしゃいます。
これには様々な要因があるでしょうから、一概にその人が悪い、あるいは教会や牧師に問題があったとは言いきれないでしょう。

ですから、種を蒔く人のたとえを聞きなさい。
だれでも御国のことばを聞いて悟らないと、悪い者が来て、その人の心に蒔かれたものを奪います。
道端に蒔かれたものとは、このような人のことです。
また岩地に蒔かれたものとは、みことばを聞くと、すぐに喜んで受け入れる人のことです。
しかし自分の中に根がなく、しばらく続くだけで、みことばのために困難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまいます。茨の中に蒔かれたものとは、みことばを聞くが、この世の思い煩いと富の誘惑がみことばをふさぐため、実を結ばない人のことです。

良い地に蒔かれたものとは、みことばを聞いて悟る人のことです。本当に実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結びます。

マタイの福音書 13章 18～23節

聖書に書かれている通りのことが起こってしまっていることは確かです。
かく言う私も受洗から3年ほどで信仰の危機をむかえ、1年以上教会から足が遠のいた時期がありました。
久しぶりに礼拝に参加して、教会、クリスチャンのあたたかさを再確認したことを覚えています。
先日、私が通う JTJ 宣教神学校のセミナーの中で、再牧会の大変さというお話がありました。
再牧会とは問題のある教会を建て直すことです。
初代教会の時代から健全な状態の教会と問題を抱えている教会があったのは、パウロ書簡からうかがえます。

イエスはまた、彼らに一つのたとえを話された。「盲人が盲人を案内できるでしょうか。二人とも穴に落ち込まないでしょうか。」

ルカの福音書 6章 39節

とのみことばにもあるように、まずは教会自体が健全でないと、せっかく求道者を招き入れても、つまずき合ってしまうかねませんね。

ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。

コリント人への手紙 第一 3章 7節

個人の霊的成長、また教会の成長、共に人の知恵によるのではなく、主が健全に育てて下さることを信じ、祈りつつおゆだねしたいですね。